

1. 全体評価

(1) 全体指標の達成状況

政策目標	メニュー	全体指標	現状値			目標値			目標年度の報告			備考
			数値	単位	年度	数値	単位	年度	実績	達成率(%)	年度	
森林整備の推進												
森林の多様な利用・緑化の推進												
優良種苗の確保												
望ましい林業構造の確立												
特用林産物の振興												
木材利用及び木材産業体制の整備推進												
山地防災情報の周知	山地防災情報伝達の総合的な推進	研修会等の開催数	0	回	H27	2	回	H28	2	100%	H28	
森林資源の保護	森林資源保護の推進	被害先端区域(試験区)におけるナラ枯れ被害木の防除本数	20	本	H27	20	本	H28	8	40%	H28	実績は試験に供した本数(H28.4試験実施機関報告)
	森林環境保全の推進	保安林指定の推進	997	百ha	H27(H25)	1,027	百ha	H28	1,026	99.9%	H28	
林業担い手等の育成確保	担い手確保・育成対策	認定事業主数	17	事業体	H24	19	事業体	H28	18	95%	H28	
		新規就業者数	43	人	H24	50	人	H28	31	62%	H28	
	林業労働災害撲滅プロジェクト	災害発生件数(減少率)	59	件	H24	44	件	H28	32	138%	H28	
市町村直接交付モデル整備												

(注)

- 1 全体指標、現状値、目標値、単位については、事業計画の内容とすること。
- 2 達成率は、目標年度の実績/目標値とすること。
- 3 実績については、その調査方法と調査年月日を備考欄に記載すること。(別様可)
- 4 報告年度については、本要領第7の1に基づくこと。

(2) 総合評価

計画主体の評価及び今後の課題とその解決策

政策目標	本事業により実施した政策目標の分析とその評価	今後の課題とその解決策
森林整備の推進		
森林の多様な利用・緑化の推進		
優良種苗の確保		
望ましい林業構造の確立		
特用林産物の振興		
木材利用及び木材産業体制の整備推進		
山地防災情報の周知	山地災害危険区域の把握を行うとともに、山地災害に関する講習会等を実施することにより、県民の山地防災に対する意識の向上が図られた。	今後、更なる周知範囲の拡大を図るため、講習会等の開催回数を増加させていく必要がある。
森林資源の保護	<p>【森林資源保護の推進】</p> <p>本事業で8本のカシノナガキクイムシ被害木に対し粘着シート等による防除を実施し、被害拡大を抑制するとともに、伐倒を伴わない防除手法の実証試験を行った。今回は当初想定より被害本数が少なかったため、試験設計を変更して実施した。</p> <p>【森林環境保全の推進】</p> <p>保安林を中心に巡視活動を行うとともに「やまぐち農林水産業活力創出行動計画」等の目標に基づく保安林の指定を推進した。保安林の指定面積は、概ね目標値を達成した。</p>	<p>【森林資源保護の推進】</p> <p>今回の試験では、カシノナガキクイムシ穿孔直後に防除を実施しなければならぬため、防除時期の選定や頻度に課題があった。今後は、穿孔直後の防除ではなく、カシノナガキクイムシ逸出時に防除を行う実証試験が課題。</p> <p>また、現在のところ被害の急激な拡大や増加は見受けられないが、一定の被害は継続して発生しているため、今後も被害先端地での防除及びより効果的な防除方法の確立に向けた実証が必要。</p> <p>【森林環境保全の推進】</p> <p>森林の公益的機能の確保のため、引き続き保安林等の巡視活動に取り組むとともに、計画的かつ重点的な保安林の指定を推進する。</p>
林業担い手等の育成確保	就業ガイダンス等で新規就業促進を行ったが目標を下回った。また、林業認定事業体を中心とした労働災害防止講習等を開催した結果、労働災害発生件数は、目標より大きく下回った。	ガイダンス等の開催を推進し、新規就業者確保に努める。労働災害防止講習会の開催を引き続き行い、労働災害防止に努める。
市町村直接交付モデル整備		

(注)

- 1 目標年度ごとに事業評価を分析したうえでその評価について記述するとともに、事業実施上明らかになった今後の課題とその解決策を記述すること。
- 2 報告年度については、本要領第7の1に基づくこと。
- 3 本表には、目標ごとに評価等を記入すること。